

第3回 平成30年2月8日(木) 9:00~12:00

○趣 旨:「夜間中学」の設置に関するアンケートの結果を基に意見交換を行い、設置について協議・検討を行う。

○参加者(7名)

委員長:柳林 信彦(高知大学教育学部学校教育教員養成課程教育科学コース准教授)

委員:戸田 雅威(一般財団法人高知県人権教育研究協議会会長)

伊藤 正孝(高知県立高知東高等学校長)

川北 恭弘(高知県保幼小中高PTA連合体連絡協議会会長)

弘瀬 健一郎(高知市教育委員会教育次長)

藤中 雄輔(高知県教育次長)

永野 隆史(高知県教育次長)

○内 容

①報告:「夜間中学」の設置に関するアンケート調査の結果について

②意見交換:設置に係る協議

③文部科学省から:「夜間中学における就学機会の提供推進」事業について

文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課

教育制度改革室義務教育改革係専門職 上久保 秀樹 氏

④協議答

①『夜間中学』があったらよいと思いますか』に関連する結果について

発言者	意見の概要
委員長	○事務局から、「夜間中学に通いたいと思う」という方が344名いるとの報告があった。このことについて委員の皆さんからご意見やご質問をいただきたい。
委員	○事務職のまとめの中に、「17,000枚のリーフレットを作成・配付したところ、8割近い県民が夜間中学の設置を要望している」とある。しかし、回答した県民は無作為ではなく、市役所等に設置しているものを自ら持っていった方。ある程度関心が高い方のはず。したがって、「県民の8割がそう考えている」という表現にならないと思う。
委員	○「10歳代、20歳代、60歳代」のニーズが多かったという結果になっているが、本当にそうか。
事務局	◆30歳代~50歳代の方は、「実際に設置をした方がいいと思う」と回答しているが、実際自分が通いたいとは思っていない。ご家族や周辺の方の学習の機会をつくるという思いで書かれたのかもしれない。
委員長	○回答者の7割以上が行きたいと考え、回答者の8割が設置を要望しているということ。高知県にいろんな教育の機会の保証があつていいのではないかということで賛成を示すもの。一方で、「行きたいと思う方は実数で300人以上。多くの方が夜間中学に行きたいと思っている」という書きぶりにする、あるいは、「調査に協力した方の中にも夜間中学に行きたいと思う方は300人以上いる」という表現はどうか。
委員長	○ここでは、高校を受験したい人と中学校の内容を学びたい人と細かく解釈する必要はないのではないか。「夜間中学校に期待すること」という設問に対して、多くの方が「中学の勉強をしたいと思っている」ということ。その中に、十分学ぶことができなかった人もいて、読み書きの修得をしたいという人もいるだろうし、高校へ進学するための学力を身に付けたいという人もいるだろうということが、アンケート調査で分かる」とまとめればよいのではないか。

②外国語版のアンケート回答に関する結果について

発言者	意見の概要
委員長	○外国語版のアンケート回答状況については、全体で何名いて、そのうちの何名が「夜間中学に通ってみたい」と回答しているのかをわかりやすく表記して頂きたい。
事務局	◆再度、アンケートを詳細に分析する。

③設置検討委員会として結果の捉え方について

発言者	意見の概要
委員	○アンケートから分かる県民の夜間中学設置のニーズに対して当設置委員会としてどのように考え、答申するか。昭和25年ぐらいに57万5千人の不登校があったが、今は少子化の中で12万。しかし、高知県の不登校は、全国のワーストの方から数えた方が早い。一方、80年代の荒れた時代の子どもたちが今、40歳代から50歳代。この世代の人が夜間中学に通ってみたいと考えているということは、この方たちが受けてきたこれまでの教育の在り方にも警鐘を鳴らしていると考え。そういう側面からも教育全体について考えていく必要もある。ニーズがあるから「夜間中学を設置する」という話だけで済ませてはいけない。
委員長	○アンケート調査は、一部を切り取った感じで見えてくるものである。表の読み方、示し方など、どのように読み取っていけばよいのかをいろいろご意見をいただきたい。
委員	○アンケートに回答してくださった方が「夜間中学に期待することは何か」を選ぶときに、自分の考えに近いところに丸をしたはず。したがって、この数字だけでは正確なことは見えてこない。
委員	○自由記述に意見を書いた方の意見をしっかり受け止めてあげてほしい。

④多様なニーズの把握について

発言者	意見の概要
委員	○ニーズとしては、60歳以上の方が少なく、40、50歳代が多いということ。これをどのように解釈すればいいのか。
事務局	◆このアンケート調査は、夜間中学についてまず知ってもらうということから始めた。さらに対象をしぼって、今後、本当のニーズを聞き取る必要がある。
委員長	○夜間中学を具体化する過程においては、県民の方のニーズに最も合った形にしたいと考える。P5・P6の表の違いをどう見るか、また、市町村によってもメインターゲットになる年齢層が少しずつずれているのをどのように捉えるのか。どういった教育課程にするのかといった問題を再考する必要がある。また、メインとなるニーズを掘り起こしていくことも考えないとはいけない。
委員	○各市町村には教育研究所があり、不登校の生徒や何らかの課題のある児童生徒には非常に手厚く支援してくれている。また、定時制、通信制の高等学校は、生徒等にも卒業につなげるように手厚く指導している。時代の変化に伴って多様な生徒を受け入れている。不登校への対応についてはこのようなところをもっとPRしていかなければならない。不登校生徒を全て夜間中学が引き受けるという考えにはならない。
委員長	○アンケートの見せ方について意見はないか。
委員	○英語・中国語版の5通。問い5でどこに丸をつけていたか。
事務局	◆2名はその他。1名は、読み書き。あと2名については確認する。
委員長	○全国では、外国籍の方は、日本語をきちんと学びたい、高齢者の方で義務教育未就学で中学校の内容を学びたい、不登校で学びたいという3つぐらいの傾向。どういうニーズがあるかを、ターゲットをしぼるうえで傾向を分析したらどうか。

委員	○親としては、夜間中学も含め、学校に「行ってもらいたい」と思うが、本人次第。不登校の状態の子どもは表面的には率先して学ぼうという回答にはならないから、彼らの心の中の声を聞くことについて、もう一工夫ほしい。
委員	○自由記述欄を他の属性と加味して分析。問い3で思うと答え問い4で思うと答えてない方がいる。さらに分析を。

⑤高知県の夜間中学設置に関する意見について

発言者	意見の概要
委員長 委員	○高知県において夜間中学設置をどのように考えるのか、本検討委員としてご意見を。 ○戸波識字学級での話。小4の分数の宿題を見てあげられないから「恥ずかしい」といった母親がいた。病院で開閉の漢字が分からず、エレベーターの操作ができなかったと報告された人もいた。ニーズは違っても字を学ぶことは必要と感じた。識字学級が減少している現状を見た時に、10代の子たちの学びたいという思いを早急に受け入れるべき。
委員長 委員	○一定以上のニーズあり、設置する方向で。 ○17,000通がどれだけ、県民にひびくか心配していた。回答として1,200通いだけた。一人でも学びたいと言った人たちがいる限り、行政側も努力が必要。設置まであまり時間をおいてもいけない。サポステ、市町村の不登校対策も充実している。その中で、夜間学級がどういう機能をもちどう人たちに学習の機会を提供できるかはきちんと精査していく必要がある。
委員	○保護者として、子どもの学びたいという気持ちを断ち切ることが怖い。県外はなぜ検討委員会まで立ち上げ、夜間中学設置をやめたのか、きちんとした分析をし、1本の柱を早急に出してほしい。
委員長	○県民に対して、配付の7%の回答、そのうちの8割が「必要」と回答したことには重みがある。今回は、最終的な方針決定に。アンケート調査の結果から、高知市以外の方々も夜間中学について関心があり、絶対的なニーズがあることが分かった。一人でも希望があれば、学びたい気持ちを保証するべきで、「設置することが望ましい」という確認でまとめとしたい。

⑥今後の検討への意見について

発言者	意見の概要
委員 委員	○答申とすれば「設置が望ましい」という方向で考えたいと思う。 ○「県立も可能」(第1回)とあったが、県教委で検討となれば、市町村での設置にはならないのではないかと。県全体から回答があって、あらゆる市町村にニーズがある状況であれば、各市町村や要所所に設置することが必要。昼間なら高知市や安芸市でも通学可能。しかし、夜間となると郡部の方は、高知市に出てこいというのでは通えなくなる。市町村合同での設置等も考えることが必要。 不登校になった場合、安易に「あそこへ行け」という考え方があったという話を聞いた。京都市は、京都市の教育委員会がフィルターをかけ、各学校で最善を尽くしても厳しい状況になった時に夜間中学をすすめたというのを聞いた。 不登校生徒がいるから、夜間中学をつくるというのは方向性としてはおかしく、逆行するのではないかと。市町村には支援機関があり、きめ細かくやるには市町村でやるほうがよい。不登校をイメージをした時、教育研究所がある。不登校対応においては、少人数指導やきめ細かい対応を求められるが、夜間だからそのような対応ができて通学が可能というものではない。不登校の子どもたちに合った学習、生活環境を考える必要がある。
委員長	○夜間中学を県立で設置するのであれば、市町村ときちんと連携を行うこと。市町村立で設置するとしても、他の市町村との連携が必要。どういう設置の仕方にするか

	<p>は、行政的な政策上の決定となる。一人一人が自らの学びが保証される形を考えた上での設置方針を考えてほしい。</p>
<p>委員 委員長</p>	<p>○市町村に夜間学級の設置を促すのも、県の施策の1つだと思う。</p>
	<p>○対象をどこにおくかを含め、具体的な計画は、慎重に検討をしてということになる。十分な配慮をしたうえで設置計画は作成されなければならない。昼間部をつくるのか夜間部だけにするのか、あるいは不登校の子どもたちをどこまでターゲットにするのか、中学校で十分に学べなかった大人を対象にするのか、どこから始めるのか、いろいろと考えることが必要。</p>
<p>委員</p>	<p>○不登校に絞った話ではなくて、学べてない人たちが存在し、学べる環境が整ってないという現状をどう受け止めるかということが大事。</p>
<p>委員 委員長</p>	<p>○予備校みたいな学習ではなく、学びの本質を大事にしてほしい。</p>
	<p>○教育的な人間関係の中で出会い、友達ができることで育つ。そういった物理的・人的環境も含めて夜間中学校の設置を考えていただきたい。</p>